

Omnicast、SecurityCenter 導入メリット



1. 導入メリット概要 (1)

① 1つのシステムで数千カメラ以上の管理が可能

導入した最大のシステムは、

1,000拠点、10万カメラの統合監視システム

② 数百カメラの国内実績が豊富

最近の事例より、

・東京スカイツリー	550カメラ以上
・品川インターシティ	340カメラ以上
・パレスホテル	470カメラ以上
・慈恵医大	350カメラ以上
・某原発	750カメラ以上
・大阪いずみ市民生協	190カメラ以上
・エバーランドシティ新・泉北	150カメラ以上

日本に供給し続けて約10年 総インストール数500箇所オーバー

2. 導入メリット概要 (2)

③大規模なアラームマネジメントシステムを構築可能

他社システムに比べて、処理能力が圧倒的に高いシステムです。

サーバー環境:最新のXEON6コア Dual Processerにて、

イベント処理数:100件/秒 (1日あたり864万件)

アラーム処理数:250件/秒 (1日あたり2160万件)※

※クライアントPCは表示が伴うため、複数台による分散構成が前提です。

④機器設置の省スペース化を実現可能

現在ご提案している380カメラのシステムでも、

1ラックで機器収納可能です。

※ただし、アラームマネジメントを考慮していない構成です。

3. 導入メリット概要 (3)

⑤ 同時接続クライアント数の制限なし

ネットワークカメラシステムは、セキュリティ用途以外にも、マネジメントやマーケティング用途でのご利用が増加傾向です。1台のカメラ映像を多くの人が見たいというご要望に対して、OmnicastおよびSecurityCenterは制限を設けません。

⑥ 拡張性

- カメラ、クライアントPCの追加
- 入退室管理システムとの連動
- センサシステムとの連動
- 車ナンバー読取システム

4. 大規模システムの運用

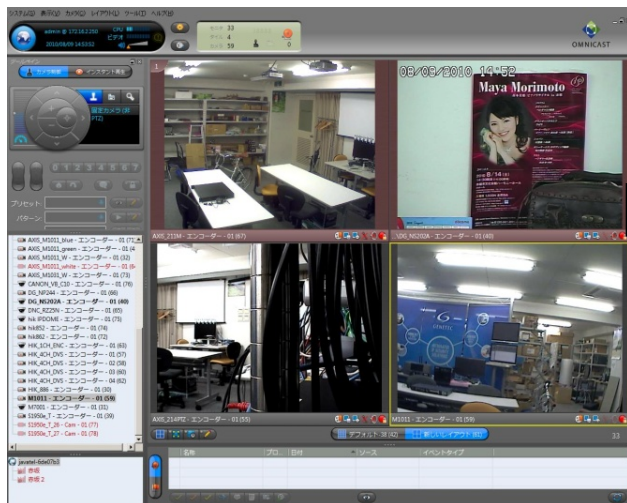
大規模システムを効率的なモニタリングは、
アラームマネジメント
が世界的に標準となってきました。

従来のシーケンシャル表示は、
・有事の際、対象カメラの映像がライブ表示されている保証はない
・管理するのに人数を要する
という弱点がありますが(そもそも警備側はあまり見ていない)、
アラームマネジメントは、
・アラーム表示まではソフトウェアが実行する
・有事の映像か否かは管理側が判断する
という、IPならではの効率的な運用といえます。

また、システム障害の際、運用停止時間を最小限にするため、
フェイルオーバー
は、大規模システムにおいて、必須機能といえます。

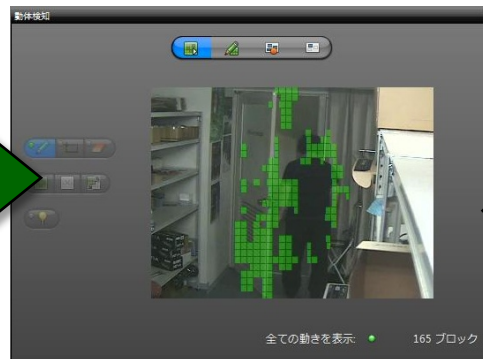
5. アラームマネジメント

通常のライブ映像表示画面



侵入者検知!

※検知するキーは動体検知でもセンサ検知でもドアオープンでもかまいません。

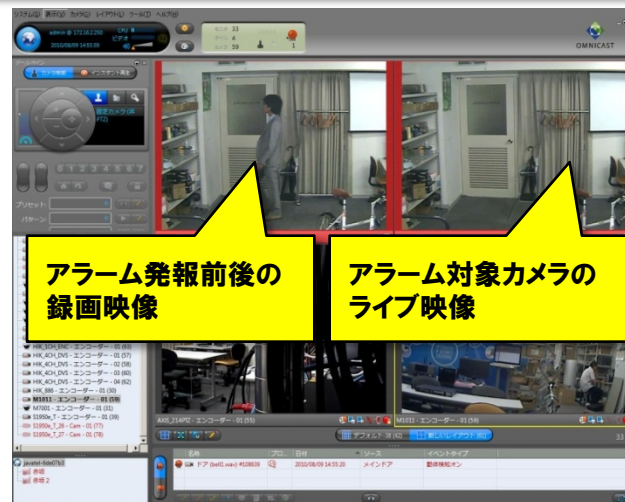


検知前後の再生映像を割り込み表示

※必要でなければ、何も表示しなくても問題ありません。

OMNICASTによるアラームマネジメントは、管理者に見ることを強いる回数を減らすオペレーションサービスです。

※画像はOmnicastのGUIです。



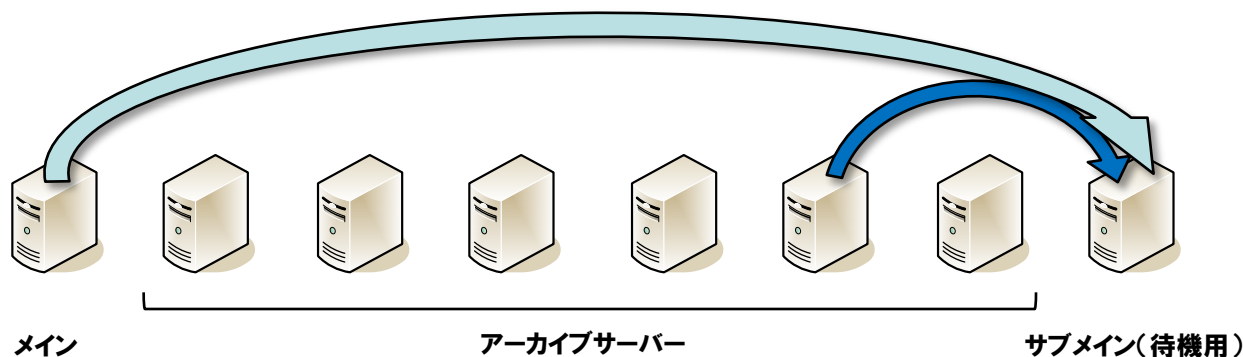
6. フェイルオーバー

複数台のサーバー構成にすることで、1台もしくは複数台のサーバーで障害が発生した際に、最小限のダウンタイムでシステムを自動復旧させる機能です。

通常運用時、カメラが接続されているのは、メインサーバーとアーカイブサーバーのみで、サブメインサーバーはカメラが接続されておらず待機状態（待機ではなく通常アーカイバーとしても可能）となっています。

サーバー間は死活監視しており、異常時にフェイルオーバーが起動します。

メインサーバー異常時もアーカイブサーバー異常時も、ともにサブメインがサービスを代行する構成となっております。（下図ご参照）



障害サーバーが復旧して再接続した場合、以下の方法で復旧させることができます。

①メインサーバー障害後、再接続した場合

サブメインをそのままメインサーバーとし、再接続したメインサーバーをサブメインとして運用する。

②アーカイブサーバー障害後、再接続した場合

サブメインから再接続したアーカイブサーバーにカメラ接続を戻す。

7. 補足

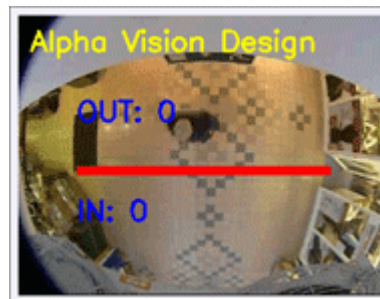
ピープルカウントで事故／万引き警戒

ミクロ 人が少ない→万引きされやすい環境

➡ 警戒警備

マクロ 人が多い →事故が起こりやすい環境

➡ 現場に警備員を送り、顧客誘導



売り場にも映像配信して、接客サポートツールに

各売り場にもクライアントPCを配置すると、

- ・アラームマネジメントで万引き警戒を促す
- ・売り場の状況をモニタリングして、接客サポートにご利用いただけます。



7. 補足追加オプション

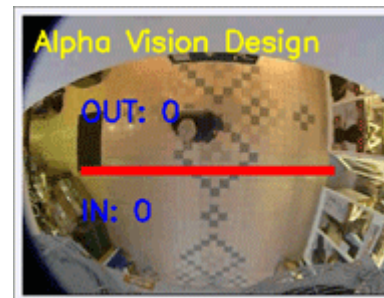
ピープルカウントで事故／万引き警戒

ミクロ 人が少ない→万引きされやすい環境

➡ 警戒警備

マクロ 人が多い →事故が起こりやすい環境

➡ 現場に警備員を送り、顧客誘導



売り場にも映像配信して、接客サポートツールに

各売り場にもクライアントPCを配置すると、

- ・アラームマネジメントで万引き警戒を促す
- ・売り場の状況をモニタリングして、接客サポートにご利用いただけます。

